



No.3354

第3672回例会
令和2年10月21日

OBIHIRO ROTARY CLUB

DISTRICT 2500

方針「ONE TEAM」

会長 長澤 秀行

2020-21年度国際ロータリーのテーマ ロータリーは機会の扉を開く

■会長報告



長澤 秀行 会長

先週のプログラムは、田中佑依さんによるグローバル補助金報告会でした。イギリス留学中の楽しかったこと、うれしかったこと、大変だったことなど、お話をいただきました。田中佑依さんは、2015年に亡くなられた田中弘パストガバナーのお孫さんです。ご縁があって、今回の留学につながったと思います。

私が、帯広クラブに入会した時に、田中パストガバナーから、再三にわたって畜大の初代学長を勤められた宮脇富先生のことを聞かされました。「先人にはロータリアンとして偉大な人がいましたよ。」とのことでしたが、「もっと、ロータリー活動を熱心にやりなさい。」と言いたかったと思います。

本日のプログラムは、小白委員長による「帯広ロータリークラブの歴史を知ろう」です。戦後、当クラブの再開に関わられた宮脇富先生について触れられるということです。

宮脇先生は明治16年に島根県でお生まれになりました。高等小学校を卒業し、14歳で北海道開拓山陰移住団に加わり札幌に来られました。郵便配達夫として学資を稼ぎながら札幌農学校の聴講生となりました。そこで、農学に興味を持ち、15歳の時に17歳と年齢を詐称し、札幌農学校農芸科に入学します。卒業後、渡米し、サンフランシスコ市立高校、カンサス州立大学で酪農学を学び、卒業後に助手、助教授となりました。この時、世界ではじめて、乳牛用搾乳機の実用化に成功しています。1911年に帰国後、北大の講師をしながら、練乳製造会社の設立に関与し、コンデンスミルクの国内生産を始めました。北大の教授に就任するためには、文部省留学生の経験が必要となり、再度、カンサス州立大学を訪れることになり、その時、教授に同行して、ロータリークラブを訪問することがあったそうです。1941年に帯広高等獣医学校の校長に就任し、その後、帯広畜産大学の学長となります。1953年、学長を退官した年に、1953-1954年第60地区（東日本）ガバナーに就任されました。

米国での経験が長く英語が堪能だったので、ロータリークラブ手続き要覧の翻訳責任者であり、ロータリー問答を10年間担当して、「ロータリーの生き字引」と呼ばれていました。

歴史を知るということは大切なことです。いろいろな機会を得るためにも歴史を学び、ロータリー活動に活かしていきたいと思います。

■プログラム (ロータリー情報・記録保存委員会)「帯広ロータリークラブの歴史を知ろう」



(1) 帯広ロータリークラブ創立

1905年シカゴでロータリーが創立してから15年後、1920年三井銀行の重役であった米山梅吉と三井物産ニューヨーク支店長の福島喜三次の労により日本最初の東京ロータリークラブが1920年10月20日創立。RI認証(1921年4月21日・認証番号852)国際ロータリー第70地区に指定され初代ガバナーに米山梅吉が就いた。その8年後、1928年第3代ガバナー村田省蔵のクラブ拡大路線「人口30,000人以上の町にロータリークラブを」の号令のもと、1932年創立の札幌ロータリークラブをスポンサーとして1935年(昭和10年)3月15日当時の帯広初代市長渡部守治氏を初代会長に、商工会会頭宮本虎次郎、杉田末吉、藤本長蔵、佐藤亀太郎を発起人としてチャーターメンバーを19名相集り、3月15日帯広市民公会堂にて総会を開催し、続いて5月31日国際ロータリー認証番号3820を受け、同年8月11日十勝会館において、日本ロータリー第4代ガバナー朝吹常吉のもとチャーター伝達式を遂行。日本ロータリー設立順位は第16番目。北海道で札幌、小樽、函館、旭川に続き5番目。これより帯広ロータリークラブの歴史が始まる。(例会場・藤丸百貨店3階)

(2) ロータリー暗黒の時代へ

創立時、帯広は市制施行2年目であり、時の市長が初代会長となっている。この頃の、世情についてみると、1932年満州事変の勃発、1933年に日本は、国際連盟を脱退、世界は第2次世界大戦に突入と、ロータリーを取り巻く環境は、風運急を告げる暗黒の時代へと突き進んでいた。アメリカへのスパイ的存在と偏見を持たれ右翼のロータリーへの弾圧激化。1940年8月になると、状況は一層深刻になり、同年9月に日満ロータリー連合会を脱退し、東京ロータリークラブ先頭に、日本各地のロータリークラブの解散が続いた。帯広ロータリークラブにおいても1940年9月5日会員15名出席のもと、第3代会長窪田利長はクラブ自主解散するに至った。日満ロータリー連合会RIの中央集権化から離れて、日本独自の地方的自治分権組織を作らざるをえないという結論から日本のロータリーを残すために日満ロータリー連合会が生まれた。この頃から、国旗掲揚と国歌斉唱の習慣が生まれた。

(3) 帯広ロータリークラブの自主解散に至るまで

1938-39年年度になって初めて、帯広ロータリークラブは会員選考・出席・プログラム・奉仕の各委員会として活動している。また、同年、北海道ロータリークラブ連合会が旭川陸軍病院に映写機の贈呈をし、帯広ロータリークラブは81円の拠出献金をしている。同じく、奉仕部門では、当時14金ロータリーバッジを造幣局にて換金し国防献金、戦傷病兵の慰問等、当時の世相を反映した奉仕活動も行っている1939年7月、十勝公会堂において、第5回北海道ロータリークラブ連合協議会が開催され、第8代ガバナー森村市左衛門、幹事小林雅一(共に東京ロータリークラブ在籍)来勝。60名余りの会員参加。1940年2月、札幌ロータリークラブの熊倉次郎副会長をゲストに依頼し例会を開催。また、郷土出身の出征軍人への地元新聞の送付、戦傷病者への慰問等の奉仕活動をしている。4月には、第70地区ガバナー代理として「宮脇富」氏が来勝している。戦後、帯広ロータリークラブの再開に貢献する人物。

宮脇 富 (みやわき あつし)



大正・昭和期の酪農研究者

島根県大田市出身。14歳で北海道に移り、北海道農科大学の前身の札幌農学校を卒業。その後渡米し、カンサス州立農科大学で酪農を研究。世界で初めて搾乳機の実用化に成功して、機械化・経営効率化に功績を残した。帰国後は北海道大教授、国立帯広畜産大学の初代学長に就任し、国内初の酪農学科を開設。近代化の道を指導。酪農の発展に生涯をさげた。また、日本ロータリークラブの発展にも貢献した。

(4) 帯広ロータリークラブ再開

第2次世界大戦後、経済復興、世情安定の中、1949年3月日本のロータリーは国際ロータリー加盟復帰が認められ、東京ロータリークラブ(第60地区として認証)に続いて、日本各地でクラブが再開された。帯広ロータリークラブにおいては、1950年スポンサークラブの札幌ロータリークラブから当時、帯広畜産大学学長の宮脇富に対し、クラブ再開の勧誘があり1950年12月19日札幌ロータリークラブ伊藤豊治会長を迎えチャーターメンバー33名にて戦後再開の総会が開かれた。帯広ロータリークラブが極めて早い時期の復活はその3年後の1953年日本のロータリー地区2分割後の第60地区ガバナーを務めた宮脇富の熱意と功績によるところ多大であり、帯広ロータリークラブとして最大の幸運であったと言わなければならない。再開当時の例会場は、日蔭丸百貨店3階にあり、その後、平原荘ホテル、宮本会堂、労働会館と変転し、1953年には日本勧業銀行帯広支店に移る。以降1968年帯広ステーションホテルに移り、現在はホテル日航ノースランドにて例会開催。

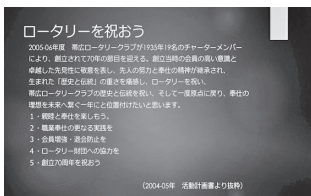
(5) 帯広ロータリークラブ再開後の活動

再開後の10年は、ロータリーの原点であるクラブ例会が確実に行われ、逐年増加する会員の親睦と友愛を第一にしてクラブ活動が進められている。特に注目すべきは当時全国で開催され

る大会等に、会員・家族が毎年数名から多い時には20余名が出席し、全国のロータリアンと親交を深めている。また、クラブ会報の前身と言うべき「例会だより」第1号が1952年8月24日付けで発行されている。職業奉仕・社会奉仕にも多くの実践行動を残している。職域の永年勤続者及び優良職場従業員表彰の継続実施、歳末助け合い運動への協力、帯広図書館への「ロータリー文庫」の寄贈、新聞配達少年激励大会の開催など、地域のニーズに対応した活動を行っている。1955年には、帯広ロータリークラブ20周年を迎え、記念式典行事と記念誌の発行「帯広ロータリークラブ奨学金制度」を開設している。1959年には、アデショナル・クラブとして帯広北クラブを設立。

(6) 帯広ロータリークラブ飛躍の時

日本国内の高度経済成長による発展と共に、帯広クラブは新しい時代への対応と地域社会のニーズに応える実践行動へと体質改善が進み、クラブ活動も多様化している1961年には会員数56名となり、その後、40周年を迎えた1975年には76名となり、年間予算も15年間で約5倍と飛躍的に増大し、当時のクラブ活動の拡大がうかがわれる。1960年に北海道全域が350地区となってから、帯広ロータリークラブは十勝管内にクラブの新設を計画。杉田末吉・山崎儀平等の積極的実行力により1962年広尾RC・芽室RC・足寄RC・1963年清水RC・1965年上士幌RCとこの4年の間に5つのクラブをスポンサーとして設立している。更に、1972年に帯広北ロータリークラブと共同して、帯広市内3番目となる、帯広西ロータリークラブを設立している。1964年、郷清吉会長のもと、国際ロータリー第350地区大会をホストし、730名余りの多数のロータリアン及び家族の登録のもとに、盛大に開催されている。奉仕活動においては、「帯広ロータリークラブ奨学金制度」も成果を上げ、1976年には警察・行政と協力して小中学生を対象に都市安全交通教室を実施し、大変好評を得た。



■会務報告

小水 基弘 幹事

- ①帯広西RC、夜間例会開催のご案内
日 時 10月29日(木) 午後6時30分
場 所 北海道ホテル
- ②帯広北RC、10月30日(金)の例会は、休会と致します。
帯広東RC、11月3日(火)の例会は、祝日のため休会と致します。
帯広南RC、11月9日(月)の例会は、休会と致します。
帯広南RC、11月23日(月)の例会は、祝日のため休会と致します。
- ③帯広西RC、夜間例会開催のご案内
日 時 11月26日(木) 午後6時30分
場 所 北海道ホテル
- ④帯広北RC、移動例会開催のご案内
日 時 11月27日(金) 午後0時30分
場 所 ふじもり食堂
- ⑤帯広南RC、夜間例会開催のご案内
日 時 11月30日(月) 午後6時30分
場 所 北海道ホテル

■ニコニコ献金

(親睦活動委員会)

工藤 大輔 会員

十勝管内3か所目のワイナリー「めむろワイナリー」建設に携わりました。フェイスブックにアップしたところ、小水幹事に「ニコニコだね!」といわれました。

小白 智志 会員

本日、例会を担当します。宜しくお願いします。

■出席報告

(出席委員会)

10/21例会の報告

会員総数89名 内免除会員2名

出席者数55名 内出席免除会員0名 内Zoom1名

出席率63.2%

■次週プログラム予定

10月28日(水)

(国際奉仕委員会)

「RI第2500地区のグローバル補助金活動について」

RI第2500地区グローバル補助金小委員長 行木 隼人 様(音更RC)



↑携帯サイトができました。
バーコードリーダーで読み込む事ができます。

例会日 / 水曜日 12:30 ~ 13:30

例会会場 / ホテル日航ノースランド帯広 TEL0155-24-1234

●創立 / 昭和 10 年 3 月 15 日

●認証番号 / 3820 ●戦後再開 / 昭和 25 年 12 月 19 日

●事務局 / 帯広市西 3 条南 9 丁目 経済センタービル 3F

TEL0155-25-7347 FAX0155-28-6033

●発行 / クラブ広報

●委員長 / 進藤 敦史・副委員長 / 角 健太郎・梶野宗一郎

委 員 / 山崎 育子・新沼 彰人・木村 尚志・坂野 奨・板谷 圭佑

●ホームページアドレス <http://www.obihiro-rc.jp>